浪江町をフィールドとした放射線研究・教育プログラム

研究代表者　床次　眞司

弘前大学 Hirosaki University

弘前大学福島県浪江町復興支援プロジェクトWG＋弘前大学浪江町復興支援室（浪江町役場内）

- 浪江町内をフィールドとした学部及び大学院教育における人材育成プログラムの構築
- 帰還後の住民や町職員の生活環境の改善・回復及び健康管理を目的とした調査研究や教育プログラムの開発・浪江町内での実践

教　員 → 教育プログラム → 学　生（学部・大学院）

看護学専攻学生のための教育プログラム

健康×復興アクティブラーニングプログラム

放射線技術科学専攻学生のための教育プログラム

放射線モニタリング教育プログラム

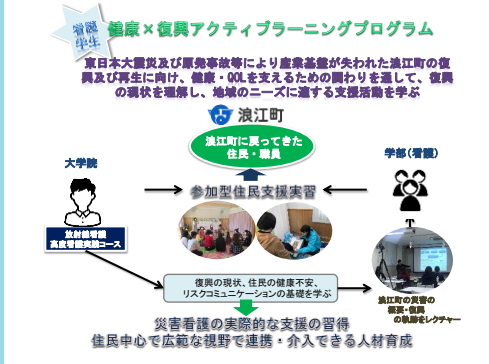
住民目線で実践的な災害看護の専門家の輩出
放射線モニタリングが実践できる人材の輩出

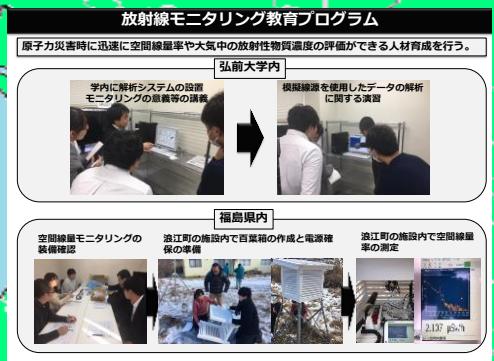
浪江町内における調査研究プログラム

①福島被災地域に生息する野生動物における人獣共通感染症の調査研究
②浪江町内の水資源利用に資する放射性セシウムの解析手法の開発

浪江町内における教育プログラム

①こども園職員自身が放射線リスクコミュニケーションを実践するための基礎資料開発
②浪江町民の独居男性高齢者の社会参加を促すアクションリサーチ
③浪江町民のための放射線リカレント教育教材の開発と実践





福島被災地域に生息する野生動物における人獣共通感染症の調査研究

【目的】野生動物における人獣共通感染症の調査研究を行うと共に、リスクコミュニケーション活動を通して病原体保有状況を地域住民へ還元するとともに、感染症対策を普及する。

浪江町で捕獲されたアライグマ

アライグマが捕獲された家屋

アライグマは人獣共通感染症のキャリア動物

ヒゼンダニ → 疥癬
アライグマ回虫 → 中枢神経障害
レプトスピラ → レプトスピラ症

町民が帰還の際、人獣共通感染症に罹患するリスクが存在

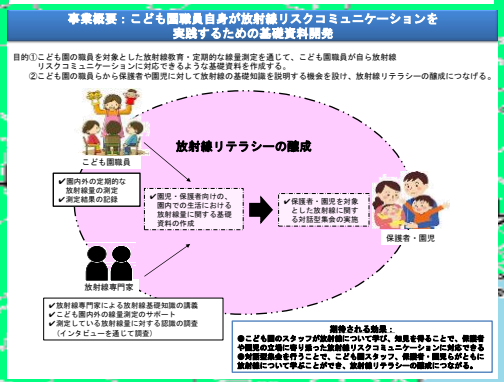
【期待される効果】安心・安全な生活を開始、継続できる生活環境の改善・回復に貢献する。

浪江町内の水資源利用に資する放射性セシウムの解析手法の開発

中・上流域の土壌に沈着した^{137}Csが河川生物へと至る過程での流出機構・化学的な形態・生物への取り込みを理解することが、今後の濃度変動を推測するうえで必要となるため、請戸川の状況を化学的な手法により精密に記載し、将来予測にも貢献する。

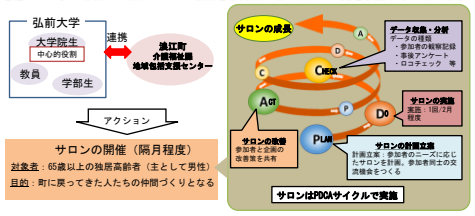
採水場所：福島県浪江町　請戸川

河川水中の放射性セシウムの存在状態を理解することが必要であるとともに、土壌中から地下水・河川水に至る放射性セシウムの移行プロセスを解明する重要な知見を与えると期待される。



浪江町民の独居男性高齢者の社会参加を促すアクションリサーチ

目的　浪江町に戻ってきている独居男性高齢者同士の仲間づくりを目的としたサロンの実施を通して、参加者個人が社会の中での役割を自発的にもつための知見を検証することである



期待される効果
・町に居住している人々の新たなコミュニティ形成につながる➡地域の復興・活性化に寄与
・町の復興を町民同士で考え、実践していく連携活動につなげられる

浪江町民のための放射線リカレント教育教材の開発と実践

浪江町	弘前大学	帰還した町民
避難指示の一部解除 なみえ創成小中学校の開校	放射線リスコミ教育への取組 放射線教育教材の開発研究	放射線に関する興味・関心 被ばくに対する不安・懸念

本テーマの目的

放射線について学修する機会のなかった**働き世代**や**高齢者**の放射線に対する**体験的理解**と被ばくリスクの**相互理解**の醸成

放射線リカレント教育教材の開発と実践

1. 放射線の性質を体験的に理解できる**実験教材**の開発と実践
2. 被ばくリスクを共考するための**アクティブラーニング型教材**の開発と実践

期待される成果

- **新しいリスコミのあり方を検討**するための基礎データの取得
- 町民の放射線・被ばくリスクへの**包括的な理解**の醸成
- 小・中学校教育現場で活用可能な放射線教育教材へ汎用化

現場実習

浪江町

住民や町職員の生活環境の改善・回復及び健康管理に資する調査研究・教育プログラムの開発

福島復興のため　弘前大学は支援を続けます